

農業景況が大幅低下の中で酪農は好調を維持 ～平成31年1月農業景況調査より～

日本政策金融公庫・農林水産事業は平成31年3月18日、融資先の担い手農業者を対象に実施した「平成30年農業景況調査」（平成31年1月調査）の結果を公表した。天候不順や価格の低下などの影響で農業全体が低調の中で、酪農は好調を維持している。ここでは、本調査の概要を紹介する。

1. 価格低下の影響大きく、農業景況DIは大幅低下（表1～5）

農業全体の平成30年の景況DIは▲11.1となり、平成29年の過去最高値（21.2）から▲32.3ポイントと大幅に低下し、マイナス値となった。

稲作や養豚、採卵鶏などの業種を中心に販売単価が大幅に低下（販売単価DI：24.3→2.1）し、さらに、生産コストの上昇（生産コストDI：▲25.2→▲37.1）も加わり、収支（収支DI：14.7→▲20.1）・資金繰り（資金繰りDI：15.5→▲4.7）が悪化したことが景況DIの押下げ要因と思われる。

本調査（往復はがきによる郵送アンケート調査）の対象者は、認定農業者の経営改善の取組みを後押しする「スーパーL資金」又は担い手農業者の新たな取組みを支援する「農業改良資金」の融資先（19,925件）で、有効回答数は6,129件（回収率：30.8%）であった。

業種別回答数は、稲作（北海道）：681件、稲作（都府県）：1,527件、畑作：574件、露地野菜：533件、施設野菜：495件、茶：124件、果樹：326件、施設花き：146件、きのこ：81件、酪農（北海道）：229件、酪農（都府県）：246件、肉用牛：425件、養豚：210件、採卵鶏：129件、ブロイラー：69件、その他：334件であった。

なお、DI（DiffusionIndex＝動向指数）とは、前年と比較して「良くなった」とする回答者の割合（%）から、「悪くなった」とする回答者の割合（%）を差し引いた値で、上向き、下向きといった方向感を捉える指標である。

2. 農業全体が低調の中、酪農・果樹・ブロイラーは好調を維持（表1）

業種全般で景況DIが低下した中で、酪農（北海道：44.8→25.0、都府県：12.6→2.5）は、安定した乳価を背景にプラスを維持している。また、果樹（21.8→20.6）は、台風など自然災害の被害を受けながらも、相場が堅調に推移した（販売単価DI：28.0→15.0）ことから、景況DIは高い値を維持している。ブロイラー（55.3→15.9）

は、相場が前年を下回った（販売単価DI：37.5→▲11.6）ものの、価格帯は比較的高い水準にあることにより、景況DIはプラス値を維持している。

一方で、景況DIの低下が目立った業種は、天候不順や自然災害の影響を受けた稲作（北海道：39.7→▲51.8、都府県：10.3→▲10.7）や畑作（34.8→▲22.7）、天候不順により出荷時期がずれ込み相場が大幅に低下した茶（26.5→▲14.5）で、いずれも景況DIはマイナスに転じている。また、きのこ（▲2.5→▲21.0）は、しいたけなどの相場が低下傾向にあり、景況DIを大きく下げている。

畜産では、採卵鶏（32.7→▲61.2）の飼養羽数の増加による供給過多、養豚（59.4→▲27.1）の豚肉輸入量の増加などにより、いずれも相場が低下していたため、景況DIも大幅に低下している。

3. 平成31年通年の景況DIはプラス値となる見通し（表1）

農業景況DIの平成31年通年見通しは、プラス値の3.2となった。

特に、国産小麦の需要増により相場の上昇が期待される畑作（▲22.7→10.1）や、飲用向けの生乳価格が上昇している酪農（北海道：25.0→7.8、都府県：2.5→25.8）など、相場が強含みの局面にある業種を中心にプラス値となっている。

一方で、相場が軟調に推移している採卵鶏（▲61.2→▲72.9）や養豚（▲27.2→▲40.5）、茶（▲14.5→▲24.4）では、景況DIのマイナス幅が拡大する見通しとなっている。

4. 雇用DIは大幅マイナスが継続、深刻な労働力不足の状況が続く（表6、7）

設備投資動向については、「平成31年に設備投資予定あり」と回答した割合が44.3%となり、前年調査（30年に設備投資予定あり：46.6%）から2.3ポイント低下した。なお、「設備投資予定あり」と回答した者に対して、平成31年の設備投資額の増減見通しを聞いたところ、「昨年に比べ増加する（48.7%）」との回答が約半数を占めた。

また、30年の雇用状況DIは▲34.7となり、前年（▲36.8）からほぼ横ばいで推移。依然として深刻な労働力不足が続いていることが見て取れる。

表1. 景況D I

	27年 実績	28年 実績	29年 実績	30年 実績	31年 通年見通し
農業全体	16.8	20.0	21.2	▲ 11.1	3.2
稲作 (北海道)	20.1	▲ 4.9	39.7	▲ 51.8	▲ 5.6
稲作 (都府県)	▲ 3.8	23.6	10.3	▲ 10.7	3.7
畑作	35.2	▲ 17.6	34.8	▲ 22.7	10.1
露地野菜	14.3	14.7	7.5	▲ 3.4	13.2
施設野菜	20.3	26.3	15.0	▲ 1.4	9.6
茶	▲ 53.1	11.1	26.5	▲ 14.5	▲ 24.4
果樹	11.5	25.6	21.8	20.6	16.0
施設花き	▲ 5.9	11.8	▲ 10.6	▲ 13.7	4.8
きのこ	15.2	1.1	▲ 2.5	▲ 21.0	7.4
酪農 (北海道)	55.9	57.6	44.8	25.0	7.8
酪農 (都府県)	29.3	52.2	12.6	2.5	25.8
肉用牛	48.5	50.3	17.5	4.7	5.2
養豚	48.8	26.2	59.4	▲ 27.2	▲ 40.5
採卵鶏	71.0	40.8	32.7	▲ 61.2	▲ 72.9
ブロイラー	51.9	27.4	55.3	15.9	1.4

出典:「平成30年農業景況調査」(日本政策金融公庫 農林水産事業本部)、以下同じ。

表2. 収支D I

	27年	28年	29年	30年
農業全体	14.2	16.7	14.7	▲ 20.1
稲作 (北海道)	21.3	▲ 13.7	43.0	▲ 63.3
稲作 (都府県)	▲ 6.5	23.8	2.2	▲ 18.8
畑作	33.9	▲ 24.7	28.1	▲ 27.5
露地野菜	5.7	13.1	▲ 0.9	▲ 14.8
施設野菜	15.3	20.3	5.6	▲ 11.8
茶	▲ 52.4	8.1	25.8	▲ 16.1
果樹	6.3	19.3	12.0	7.4
施設花き	▲ 8.1	9.1	▲ 24.6	▲ 22.0
きのこ	11.4	▲ 1.0	▲ 3.8	▲ 24.7
酪農 (北海道)	55.5	57.0	36.8	7.4
酪農 (都府県)	25.4	48.4	1.7	▲ 3.3
肉用牛	50.8	48.6	7.0	▲ 4.1
養豚	50.2	19.1	57.9	▲ 34.9
採卵鶏	63.0	44.8	31.9	▲ 62.8
ブロイラー	42.3	29.1	55.3	4.3

表3. 資金繰りD I

	27年	28年	29年	30年
農業全体	7.6	15.5	15.5	▲ 4.7
稲作 (北海道)	8.2	▲ 2.5	23.8	▲ 30.4
稲作 (都府県)	▲ 10.7	13.5	7.3	▲ 5.9
畑作	19.9	▲ 3.3	23.3	▲ 5.3
露地野菜	2.3	14.2	2.7	▲ 6.4
施設野菜	16.0	19.8	11.5	0.8
茶	▲ 41.3	4.3	20.2	▲ 8.0
果樹	1.4	14.7	8.6	8.9
施設花き	▲ 6.8	7.3	▲ 5.9	▲ 6.9
きのこ	10.1	1.0	7.5	▲ 24.7
酪農 (北海道)	39.2	45.7	36.3	21.1
酪農 (都府県)	26.5	42.1	16.4	5.4
肉用牛	27.8	34.6	16.9	8.7
養豚	45.0	32.4	55.6	▲ 7.1
採卵鶏	56.0	44.8	31.1	▲ 30.2
ブロイラー	38.5	29.1	50.0	27.6

表4. 販売単価D I

	27年	28年	29年	30年
農業全体	13.1	26.1	24.3	2.1
稲作 (北海道)	10.1	19.9	54.4	▲ 5.9
稲作 (都府県)	7.0	33.4	36.0	16.9
畑作	▲ 15.4	▲ 3.5	▲ 2.1	▲ 1.9
露地野菜	▲ 10.0	16.5	▲ 7.8	0.8
施設野菜	▲ 0.6	26.0	8.7	▲ 11.6
茶	▲ 59.4	▲ 1.3	18.1	▲ 41.1
果樹	10.9	34.9	28.0	15.0
施設花き	▲ 15.4	7.3	▲ 28.6	▲ 23.3
きのこ	▲ 6.4	▲ 18.2	▲ 11.3	▲ 39.6
酪農 (北海道)	85.9	79.3	67.8	47.6
酪農 (都府県)	61.7	50.7	14.4	17.6
肉用牛	85.8	76.4	17.1	20.4
養豚	26.9	▲ 15.1	63.6	▲ 55.0
採卵鶏	74.0	▲ 12.0	1.7	▲ 66.7
ブロイラー	28.8	▲ 9.7	37.5	▲ 11.6

表5. 生産コストD I

	27年	28年	29年	30年
農業全体	▲ 44.7	▲ 19.1	▲ 25.2	▲ 37.1
稲作 (北海道)	▲ 44.1	▲ 24.2	▲ 18.8	▲ 36.9
稲作 (都府県)	▲ 36.5	▲ 11.5	▲ 11.2	▲ 18.2
畑作	▲ 63.7	▲ 32.6	▲ 28.4	▲ 38.5
露地野菜	▲ 56.8	▲ 28.9	▲ 40.0	▲ 46.3
施設野菜	▲ 41.0	▲ 26.5	▲ 39.9	▲ 49.0
茶	▲ 30.1	▲ 11.1	▲ 32.2	▲ 46.7
果樹	▲ 48.4	▲ 31.3	▲ 37.3	▲ 39.0
施設花き	▲ 33.5	▲ 21.9	▲ 48.6	▲ 53.5
きのこ	▲ 43.0	▲ 22.4	▲ 28.8	▲ 59.2
酪農 (北海道)	▲ 46.4	▲ 4.9	▲ 35.2	▲ 48.2
酪農 (都府県)	▲ 46.6	▲ 0.7	▲ 32.9	▲ 40.4
肉用牛	▲ 63.1	▲ 37.3	▲ 41.3	▲ 46.7
養豚	▲ 17.7	16.9	12.1	▲ 37.0
採卵鶏	▲ 32.0	11.2	▲ 12.0	▲ 49.6
ブロイラー	▲ 44.2	▲ 4.8	▲ 16.1	▲ 23.2

表6. 設備投資予定ありの比率

	27年	28年	29年	30年	31年
農業全体	34.5	43.6	51.8	46.6	44.3
稲作 (北海道)	26.1	44.1	48.6	45.2	41.0
稲作 (都府県)	32.5	45.1	53.5	49.8	47.0
畑作	37.2	50.1	54.1	53.2	49.7
露地野菜	34.8	41.9	50.8	44.6	43.8
施設野菜	34.6	38.6	46.3	40.2	38.0
茶	30.3	28.2	45.7	40.5	40.7
果樹	31.7	38.2	45.5	33.5	35.2
施設花き	26.3	28.1	41.1	30.8	28.8
きのこ	36.6	44.9	47.3	43.2	51.9
酪農 (北海道)	36.4	42.0	53.7	46.1	44.3
酪農 (都府県)	42.8	38.3	58.0	49.4	48.4
肉用牛	41.1	49.9	56.8	46.2	45.1
養豚	55.9	54.4	62.1	58.0	45.5
採卵鶏	46.5	54.0	61.3	61.2	44.2
ブロイラー	47.8	55.8	59.7	51.8	55.1

表7. 雇用状況D I

	27年	28年	29年	30年
農業全体	▲ 26.3	▲ 33.6	▲ 36.8	▲ 34.7
稲作 (北海道)	▲ 26.7	▲ 35.6	▲ 39.0	▲ 41.2
稲作 (都府県)	▲ 18.8	▲ 27.3	▲ 27.8	▲ 27.6
畑作	▲ 33.6	▲ 40.8	▲ 45.0	▲ 40.9
露地野菜	▲ 34.9	▲ 41.5	▲ 43.4	▲ 36.7
施設野菜	▲ 24.1	▲ 30.8	▲ 33.0	▲ 30.9
茶	▲ 26.6	▲ 30.8	▲ 37.7	▲ 40.7
果樹	▲ 25.6	▲ 32.0	▲ 36.8	▲ 36.9
施設花き	▲ 26.8	▲ 31.6	▲ 34.4	▲ 31.8
きのこ	▲ 26.6	▲ 37.6	▲ 41.2	▲ 42.0
酪農 (北海道)	▲ 40.4	▲ 45.0	▲ 52.5	▲ 44.1
酪農 (都府県)	▲ 25.8	▲ 28.0	▲ 27.6	▲ 26.3
肉用牛	▲ 24.7	▲ 28.7	▲ 34.3	▲ 32.4
養豚	▲ 35.6	▲ 44.5	▲ 44.3	▲ 32.7
採卵鶏	▲ 31.0	▲ 43.2	▲ 47.4	▲ 41.1
ブロイラー	▲ 15.4	▲ 21.4	▲ 36.4	▲ 25.0